京都教区90年、そのはじまり

― 祈りと決断、戦争の中で受け継がれた信仰 ―

京都司教　十パウロ大塚喜直

第３回「仏教のローマ」京都　― 明治の再宣教とヴィリオン神父の足跡 ―

古都に福音を伝える

第２回では、日本の教会とメリノール宣教会の願いが結ばれ、京都・滋賀への宣教の道が開かれました。

京都は千年以上にわたって都として栄え、日本の宗教文化が育まれた町です。明治初期には、東西本願寺や知恩院など諸宗派の本山と寺院が集まり、仏教文化は学問、教育、芸術、年中行事を通して、暮らしに根づいていました。ローマがカトリック教会の中心であるように、京都は日本仏教の歴史的・精神的中心でした。メリノール宣教会が京都を「仏教のローマ」と呼んだのは、このためです。ここでの宣教は、大きな覚悟を要する使命でした。

ザビエルが都に託した願い

1551年１月、聖フランシスコ・ザビエル（Francisco de Xavier、1506－1552）は、天皇や将軍から宣教の許可を得ようと京都を訪れました。しかし、戦乱で荒廃した都で会見を果たせず、11日ほどで京都を後にしました。それでも、その志は後の宣教師たちに受け継がれました。



織物「南蛮寺扇面図」　狩野宗秀　原画
望洋庵聖堂（写真は『道が京都から』より）

1576年、中京区姥柳町（うばやなぎちょう）付近に、「被昇天の聖母」にささげられた「都の南蛮寺」が建てられました。当時、教会は「南蛮寺」や「だいうす寺」と呼ばれました。「だいうす」はポルトガル語の *Deus*、「神」のことです。禁教後も跡地は「だいうす町」または「だいうすの辻子」と呼ばれ、古絵図や地誌に名を残しました。

1587年、豊臣秀吉がバテレン追放令を発布すると、都の南蛮寺は壊されました。1614年には徳川幕府の禁教政策が全国に及び、京都での公然とした宣教は途絶えていきました。

土の中で待った「都の聖母」

京都宣教への祈りは絶えませんでした。1847年、フランスのサン・クロード教区ディーニャ村（Digna）で、レオン・ロバン神父（Léon Robin、1802-1882）は、日本での宣教再開を願い、祈りの会を始めました。1864年には六体のブロンズ製聖母像をローマで鋳造させ、翌年、教皇ピオ９世の祝福を受けた像は「都の聖母」（Notre-Dame de Miyako）と名づけられました。



その一体は1866年、「京都を見下ろす丘に埋めてほしい」という手紙とともに横

浜へ届けられました。1873年、パリ外国宣教会のフランソワ＝ポラン・ヴィグルー神父（François-Paulin Vigroux、1842－1909）が京都へ運び、市街を見渡す東山の将軍塚に埋めました。「都の聖母」は土の中で、宣教の道が再び開かれる日を待ったのです。

困難の中の京都宣教

1873年に禁教の高札が撤去された後も、京都での宣教は容易ではありませんでした。パリ外国宣教会のエメ・ヴィリオン神父（Aimé Villion、1843－1932）は、1868年に来日し、長崎、神戸に赴任し、1879年9月、フランス語教師という名目で京都に入りました。


母国フランス出国前のヴィリオン神父

外国人の活動にはなお制約があり、キリスト教への警戒も残っていました。ヴィリオン神父は高倉二条の借家に語学塾と仮聖堂を設け、将軍塚から掘り出した「都の聖母」像を安置しました。警察の監視を受けながらも、また、知恩院で仏教を学び、僧侶と交流しました。京都の文化を理解し、敬意をもって福音を伝えようとしたのです。

1888年、現在の河原町教会の土地を購入し、聖堂建設が始まりました。ヴィリオン神父は完成を見ずに山口へ転任しましたが、1890年５月１日、聖フランシスコ・ザビエル教会が献堂され、「都の聖母」像も脇祭壇に安置されました。ザビエルの志は、300年以上の時を経て実を結びました。

４府県に築かれた礎

ヴィリオン神父は、長崎で、浦上四番崩れによって信徒たちが各地へ流配される苦難を目の当たりにしました。その後、神戸では、流配先からひそかに訪ねてくる信徒たちを励まし、その信仰を支えました。京都に赴任してからも、故郷の浦上へ戻らず、宮津、大和郡山、津、伊勢などにとどまった信徒たちを訪ね、信仰生活を守るために力を尽くしました。


ジャン＝ルイ・ルラーブ神父
Photo : I R F A /Missions Étrangères de Paris


宮津洗者聖若翰天主堂

その後も、パリ外国宣教会の宣教師たちは、京都、滋賀、奈良、三重の各地に宣教拠点を築いていきました。宮津では、ジャン＝ルイ・ルラーブ神父（Jean-Louis Relave、1857-1941）が、1896年に「宮津洗者聖若翰（ヨハネ）天主堂」を建てました。こうして４府県に築かれた宣教拠点が、後の京都教区の礎となったのです。

このように、「仏教のローマ」と呼ばれた京都へ赴き、ザビエルの願い、「都の聖母」に託された祈り、そして明治期の宣教師たちの歩みを受け継いだのが、メリノール会の３人の若き宣教師たちでした。

次回は、この３人が日本語と日本文化を学び、新たな宣教に備えた歩みをたどります。


ザビエル天主堂献堂式（初代河原町教会）の様子

この天主堂は、1973年に博物館明治村（愛知県犬山市）に移築され、2004年に登録有形文化財に登録されました。